

# 第5回泉南市総合計画審議会 会議録

日時：令和4年10月27日（木）13：00～

場所：泉南市役所 本館2階 大会議室

## 1 開 会

## 2 案 件

### (1) 総合計画基本計画（案）

分野別政策1・分野別政策2・分野別政策3について

## 3 その他

## 4 閉 会

### 【出席委員】

和泉委員、上中委員、片木委員、上山委員、土井委員、道場委員、松本委員、若林委員、奥委員、川田委員、中澤委員、前川委員、山中委員

### 【欠席委員】

北村委員

※順不同

## 1 開会

事務局：第5回泉南市総合計画審議会を開催します。委員の皆様には公私ともにご多忙の中  
ご出席を賜りありがとうございます。本日の出席委員は13名で、総合計画審議会規  
則第7条第2項の規定により本審議会が成立していることをご報告します。

### (資料の確認)

審議会規則第7条第1項の規定により議長は会長が務めることとなっていますので、  
和泉会長に進行をお願いします。

会 長：お忙しい中ご参集くださいますありがとうございます。前回の審議会後に私と北  
村委員、川田委員、中澤委員、前川委員で市内見学に行きました。その感想をお聞  
きしたいと思います。

川田委員：泉南市の山の方に行くのは初めてで声が出るほど衝撃的でした。整備されていない道を上りながら“泉南市にこんな所があるのか”と思いました。交通の便も悪く限界集落のような感じで“この人たちはどのように買い物されているのか”と感じましたが、山も海もある面白いまちという印象です。泉南市の長所を考えていきながらよいまちにしていければと思います。

中澤委員：私は生まれも育ちも泉南市です。開発が進んでいますが、それに伴って不法投棄が増えていると感じます。もっと見たい所がありましたが、時間の都合で一部カットされたのが残念です。前川委員が隣でいろいろ解説してくれたので有り難く思いながら回っていました。

前川委員：泉南市の道路事情を申しますと南北には幹線道路が2本通っているのですが、東西には根来街道1本しか通っていません。このプランでは東西の軸として根来街道が重視されているのですが、どのように充実させていくのか認識を新たにしました。

会 長：初めて行った所が多かったのですが、皆さんが海側、山側とおっしゃる意味がわかりました。ダムと海が近くよい意味でコンパクトだと感じました。中澤委員と同じく他に見たい所がたくさんありますので次は個人的にいろいろ回りたいと思います。

## 2 案件

### (1) 総合計画基本計画（案）

分野別政策1・分野別政策2・分野別政策3について

会 長：まず基本計画（案）10/27修正分について事務局より説明をお願いします。

【事務局より、基本計画 分野別政策3（施策12）（案）10/27修正分の説明】

会 長：こちらは後ほど審議の時間を取りますので、このまま進めさせていただきたいと思います。前回検討した基本構想における10年後の将来像（スローガン）のサブタイトル案を事務局で考えていただいたので、その説明をお願いします。

【事務局より、10年後の将来像（スローガン）（案）10/27改定分の説明】

会 長：スローガン「ちょっとええやん なかなかええやん」については前回の審議会で決定しており、その下のサブタイトル案が「かんじる つながる ひろがる 住人十色のまち せんなん」ということです。子ども会議やワーキンググループ、そしてこの審議会で出た様々な意見を取り入れたサブタイトルになっています。いかがでしょうか。私自身はよいと思いますが、このサブタイトルで進めてよろしいですか。

（異議なし）

ありがとうございます。ご異議なしということで、こちらをサブタイトルとします。

それでは基本計画の分野別政策についての審議に入ります。施策1・2の審議は前回に終えており本日は施策3以降の審議となります。資料説明は前回に行っているため省略とします。テーマにより議論が長引くものもありますが、時間が限られていますので時計を見ながら私の方でマネジメントさせていただきます。ただ、時間が来たから終わりというわけではなく、意見がある場合は事務局にお伝えください。事務局にその意見をペーパーに起こしていただいて審議会全体で共有し、反映できるところは反映していきたいと考えています。分野が似通っているものはセットにするということで、まずは施策3「子育て支援」と施策4「就学前教育・学校教育」を合わせて議論していきたいと思っています。

松本委員：主な取組の語尾が「行います」「図ります」など言い切った形ですが、できなかった場合どう弁明するのかと思います。

会 長：一般的なお話ですか。

松本委員：そうです。表現方法をもう少し考えてはどうかと思います。

事務局：我々は意欲にあふれていますので、ここに書かれていることをしっかり取り組んでいきたいという思いが強く、語尾は明確にしたいと考えています。

会 長：松本委員のおっしゃるよう言い切って心配な面はありますが、心意気での表現というところですし他の自治体も「行います」「実施します」と記述しています。

上中委員：主な取組は泉南市在住の人に対する施策を書いているわけですが、泉南市に住んでいない人がこれを読んでうらやましく思うかどうかです。施策3の主な取組①に保育環境の充実とありますが、いろいろ民間に丸投げで行政は何をしているのかといつも感じています。行政ができることとして、まずは老人集会所という名称を誰もが来やすいものに変えてください。そこで拠点づくりを進めれば新しい人たちが住み着いてくれると思います。泉南市に住んでくださいというアピールが足りません。魅力あるまちを築く方策を練ってほしいと思います。

会 長：確かに老人集会所という名称は変える方がよいですね。身近なものから変化が生じてくれば、いろいろよくなると思います。文章の書きぶりで、例えば施策3の主な取組①保育環境の充実の4点目に「子育て関連施設の充実を図ります」とありますが、これだけでは漠然としていてわからないというのはそのとおりです。ただ、この基本計画ではなく次の実施計画に子育て関連施設に投入する予算等の具体的な内容が記載されます。いずれにしても上中委員がおっしゃったような細かなお話が大事です。他にいかがでしょうか。

奥 委員：私が子育てをしていた27～28年前には今のような施策はありませんでした。妊婦健

診では1回だけ費用の払い戻しがありましたが、それ以外は自己負担です。また、医療費の助成は1歳まででした。今は妊婦健診の費用に毎回補助があって医療費の助成対象年齢も幅広く、昔と比べよくなっています。このように10年後には今より子育て支援が充実しているだろうと思います。

前川委員：施策4の主な取組③安全・安心な教育環境づくりの4点目に「防災拠点や地域コミュニティ拠点となる機能の付加や学校を核として各主体をつなぐ教育コミュニティ拠点となる開かれた学校づくりを行います」と書かれていますが、一方で関連する主な個別計画として「泉南市立小中学校再編計画」があることに矛盾を感じます。

事務局：再編計画は地域の特性や子どもたちの数を鑑みたくて審議会に諮っているところで、もう少しである程度の案を答申としていただければと思っています。今後、一部の学校をリニューアルし単なる教育施設という形ではなく防災拠点や地域コミュニティの機能を付加します。そのリニューアルした学校を核とした教育コミュニティ拠点ということで、今の全小中学校がそういった拠点になるわけではありません。

川田委員：施策3の主な取組③子どもと保護者の健康づくりの推進の1点目に「妊娠中から出産、子育て期に至るまで、安心を確保できるよう、各機関の機能充実～」と書いてありますが、泉南市には産科がなく小児科も少ない状況です。どう安心を確保できるのかと思います。ここに住めば安心して出産や子育てができるという計画が必要です。この10年で産科を確保するのは現実的でないと思うので、泉南市に産科はないものの安心して出産でき小児科も受診できるという情報をどのように出していただけるかだと思います。泉南市に引っ越してきたばかりのとき1歳の子が高熱を出したことがあります。それで近くの病院に行ったのですが、赤ちゃんは診察できないと言われ途方に暮れました。しかも小児科の紹介も断られて衝撃を受け駐車場で泣いてしまいました。そんな私を見かねた人が小児科を紹介してくれたのですが、その人も市外から来て同じような経験をされたそうです。とにかく安心の確保のためには具体的な情報提供が必須になります。また、子育てや教育にかかる費用の問題をクリアできればうまくいくと思います。泉佐野や田尻に住む人が多いのは給食費無償化等、子育てにお金がかからないからです。泉南市に来れば子育てや教育にお金がかからないところを計画に落とし込んでいただければ住む気になってくれるのではないのでしょうか。施策4の「泉南市立小中学校再編計画」について個人的には賛成です。うちの子が来年行く中学校は少人数で部活すらままならない状況だと聞いています。集約せざるを得ない部分もあるのですが、学校まで1時間かかる問題をどうフォローするか具体的に教えてほしいと思います。主な課題の2点目に「多様な学びやICTの活用等」とあります。小学校ではiPadの導入により各児童にカスタマイズできる教育方法を取れていると聞くので、それは推進してもらいたいと思います。得意分野・不得意分野がデータとして蓄積されていくと思うので、得意分野が伸びて不得意分野をクリアしていただけるような情報を提供していただければ塾に通う必要がなくなり助かります。

事務局：産科がなく小児科も少ない状況ですが、施設機能面の抜本的な改善は市単独では難しいところがあります。それ以外の安心の確保のため、ここに記載のとおり施策で対応していかなければならないと思っていますし、実施計画の中でしっかり予算化もしていきます。子育て費用の負担軽減は他市の事例を参考にしながらも市オリジナルの部分を出していこうと思います。学校再編に関しては部活動や社会性の教育をどうするかなど様々な課題がありますが、合理的判断の中で進んでいくかと考えています。GIGA スクール構想の中で1人1台 iPad が整備され委員がおっしゃったようにデータ蓄積はできるので、それをいかせるよう学校でも取り組んでおられますし我々もサポートしようと思います。

会長：本筋から離れる話ですが、この場の議論を職員全員に知ってもらう必要があると思います。例えば議事録を全職員が読む方向性で事務局と話を詰めていきたいと考えています。基本的には計画策定のための審議会ですが、そこを少し踏み越える形で皆さんの生の声を職員全員に知ってもらう機会を事務局と相談しながら考えてみたいと思います。行政からの情報の出し方は地域差や財政的な差も生じます。できないものは仕方ありませんが、これで代替できるという情報を知りたいわけです。そういうところを心がけられるまちなになる計画にしていきたいと思っています。

川田委員：今はこちらから情報を取りに行かなければならない状態です。余裕がありその方法も知っていればそれでよいのですが、日々の生活で精一杯で自ら情報を探す余裕のない人や取得の仕方がわからない情報弱者もいます。そういう人たちに届くような情報の出し方を考えてもらいたいと思います。

会長：「ええやん」があふれるまちなにしようと思えば情報を取れない人もいるということを考えていかなければなりません。施策3・4について議論していますが、もう少しご意見をお聞きしてから次に進みたいと思います。今後の進め方としては施策5・6、施策7～10、施策11・12、施策13～15の4ブロックに分ける形を取ります。では施策3・4についてのご意見を伺いたいと思います。

上山委員：施策4の主な取組②義務教育の充実の1点目に「確かな学力を身につけ豊かな心を育むため～」とありますが、確かな学力や豊かな心とはどういうものか、具体的に書いた方がよいと思います。

事務局：確かな学力については市として学力向上対策室を設置する中、少しでもテストの点数を上げていくということです。ただ、学力向上だけではだめで社会性、協調性、判断力の育成といったものが豊かな心になります。

山中委員：施策4の目標値「幼稚園・学校に行くのが楽しいと思う子どもの割合」が90.0%というのはどうかと思います。もっと高く設定すべきではないでしょうか。取組状況・背景の1点目に「集団での遊びの充実」とありますが、これがいやで学校に行

けない子もいます。集団ということを出すのは不登校のお子さんや保護者の方にとってつらいものがあると思います。主な取組②の3点目に「性別、国籍、障害の有無～」とありますが、ここ3～4年で小学校の支援学級に通う児童数が増えていると聞きます。制度が整っておらず、加配の先生もいなくて困っているようです。支援学級について未整備の部分が多くそこが気になります。

上中委員：地域の方の話ですが、お子さんが乱暴ということで小学校に上がる時に支援学級を希望するかと聞かれたそうです。それは断って普通学級に入り2年生になる頃にはみんなと仲よくなったと聞きました。昔はどんな子どもでも一緒に教室でしたが、今は入学前にふるいにかけるようなことをするのですか。

事務局：まずは山中委員に対して回答します。施策4の目標値をもっと高くというのはご指摘のとおりだと思います。本当は100%を目指したいのですが、集団になじめない子どもや給食がきらいで園や学校を楽しめない子どももいます。また、他自治体の計画でも100%と設定しているところはないためこの数値としております。集団での遊びがいやな子どももいるというお話についてですが、学校が個々の状況に応じてきめ細かな対応ができていない現状もありますので特認校制度の活用等、行政でなんとかフォローしていきたいと思っています。支援学級については上中委員からもお話がありました。支援学級へ促すようなことや支援学級に通う児童数が多いというのは過剰な反応をしている部分もあるかと思っています。いずれにしてもお二人の話は学校に情報提供という形で伝えておきます。

会長：山中委員にお聞きしますが、集団が苦手な子がいるというのは小学生の話ですか。

山中委員：そうです。

会長：おっしゃるとおりだと思います。ただ、教育現場としては集団という言葉を使ってしまう。また、集団で何かをすることに小中学校では教育的な意味を見出しています。次にまいります。施策5「生涯学習・スポーツ・青少年健全育成」と施策6「歴史・文化」について何かございますか。

上中委員：青年団は泉南市に20いくつ存在していますが、それに対する助成がありません。青年団が小中学生の面倒を見ているので行政として助成することが必要だと思います。

事務局：青年団は有志の集まりということで助成は考えていないと聞いています。

上中委員：地域の子どもの育てていくためにも青年団は必要だと思います。青少年健全育成というなら青年団を中心に考えるべきです。青少年の範囲を教えてください。

事務局：以前は18歳未満としていましたが、今はその限りではありません。

会 長：青年団が泉南市の若者を育成するための特徴の一つであるならば、施策5のどこかに青年団という言葉を入れてもよいかと思えます。

片木委員：うちの地域では青年団が盆踊りや祭りなどを主催しています。ただ、系統だった育成システムにはなっておらず参加も任意です。今は祭りのための青年団という感じで教育的な観点からは外れているので、組織のあり方を見直すべきだと思います。

上中委員：うちの場合は地域の清掃にも青年団が参加しています。各区で年に一度の大掃除をしていたのですが、いつの間になくなりました。こういうものを復活させないと地域がバラバラになります。青少年健全育成というなら、その範ちゅうに青年団を入れてほしいと思います。

中澤委員：盆踊り、やぐら、だんじりとといった祭りがある地域は青年団組織が守られていると思います。ところが、子ども会に移行した地域は時代の流れで青年団が衰退し育成する気もありません。

会 長：市としては青少年健全育成の中に青年団を想定しておられますか。

事務局：市民協働の観点では青年団に行政が関わることができればよいと思います。すべてが行政主導というのではなく、市民協働の中お互いに協力し何ができるかを考えていく必要があると思う次第です。

会 長：そういう問題意識を持ちながら行政運営していただければと思います。どこまで計画に落とし込めるかはわかりませんが、地域住民ならではのご意見を伺えた有意義な時間でした。他にいかがですか。

上中委員：施策5のスポーツというのは何を指していますか。

事務局：いわゆるスポーツ全般です。

上中委員：うちの地域ではボランティアで小学生にサッカーを教えています。運動場が荒れ放題だったので自分たちで芝生を植えそれを枯らしてはならないということで水を散布したのですが、1か月に4万5千円も水道代がかかり下水も合わせると9万円になりました。全くの持ち出しでこれでは教えたくても続けられません。

事務局：我々も助成したいのですが、あらゆるスポーツに対しフェアに対応するのは厳しいものがあります。こういう意見が出てると伝え可能な部分については対応していきたいと思えます。

上中委員：泉南市内の他のグラウンドで練習することもあるのですが、その使用料が以前は6

千円だったのに今は4万5千円もします。また、管理側が土日を押さえていることが多いのでなかなか使えません。泉南市民が優先的に使えるようにしてほしいと思います。

事務局：施設維持のためにはそのくらい費用がかかるので決して高くないと思います。ただ、泉南市民を優先にというのはそのとおりです。土日の30%程度は市民枠とし金額も抑えてくださいと要望を出しており、そこはある程度了承してほしいと思います。

片木委員：施策6の取組状況・背景の1点目に「海会寺跡をはじめとした文化財の調査、価値づけ、活用を図っています」という記載があります。埋蔵文化財センターは博物館という位置づけで運営されていますが、土曜日は隔週でしか開いておらず日曜日は休館です。せっかく歴史や文化が詰まっている施設なので来やすくなるための変更をお願いしたいと思います。また、最近文化に対する取組に不安を感じているので、ここの文言どおり活用を図っていけるよう頑張してほしいと言っておきます。

事務局：埋蔵文化財センターの稼働率はおっしゃるとおり低い状況が続いています。例えば常設機能の一部を埋蔵文化財センターに移転すれば本来業務と合わせての展示、土日の開館も可能になるということで、そういう新たな取組を考えております。

若林委員：私が子どもの頃は泉南の海で泳ぎ、山に登りというように自然とたくさん触れ合っていました。ここ3年のコロナ禍で子どもたちは閉じ込められた生活を送っています。スローガンにあるように「ちょっとええやん なかなかええやん」と感じるためには頭だけでは無理だと思います。施策6の歴史・文化の取組が必要です。小さい頃から博物館等の文化的な施設に行き、そのときはわからなくても本物に触れていく体験が大事だと思います。それがなければ文化や歴史を担う力がつきません。主な課題に担い手の育成があがっていますが、子ども時代からの育成という視点に変えていかないと本当の力はつかないと思います。

会長：文化や地域のお話がたくさん出ていますが、なぜそういう話ができるかといえば皆さん小さい頃から地域文化の中で育ってこられたからです。文化や地域にあまり関わらない今の子どもたちが大人になっても皆さんのようには話せないと思います。幼少期からいろいろな経験をする機会を大事にすべきだと思いますし、大人が子どもたちをそこに参加させて見守ることが必要です。文化を大事にというのはそのとおりだと思います。常設の一部を移動して博物館の稼働につなげるという話も事務局からありました。期待したいと思います。では次にまいります。施策7「農業・漁業」施策8「商工業」施策9「観光」施策10「雇用」についていかがでしょうか。

中澤委員：施策7の農業ですが、高齢化で担い手が減っています。取組状況・背景の2点目で「泉南農業塾の創設による新たな担い手確保を行っています」と言い切っていますが、どの程度進んでいますか。



事務局：農業塾については国の地方創生推進交付金を借りつつ後継者問題や農業の自立化も含め頑張ってきているところです。予算要求し来年も引き続き注力して取り組もうと考えています。また、AI 農業やスマート農業についても実施計画で示していきたいと思います。

会長：農業や漁業に子どもたちが触れる機会がありますか。

事務局：はい。幼稚園や小学校低学年が学習農園という形で農業に触れています。

上中委員：漁業に対して行政はどのような関わり方をしていますか。

事務局：漁業は組合があり、そこと一緒に商品化や特産品の新たな創出に取り組んでいます。泉南あなごで実績ができていますので、モデルケースを改めてつくろうということで進めています。

上中委員：漁業と農業では担い手育成の補助金にかなりの差があります。農業塾に対する補助金は僅かですが、漁業関係にはかなり出しています。差がついている理由を教えてください。

事務局：昨年、漁業組合に対し特産品産出という名目で3千万の予算化をしています。ご指摘のとおり農業塾の補助金は僅かですが、新しいシステムづくりに対する投資はしています。また、給食における地場産品の活用ということで市内から出荷されている農作物を漁業組合と同じ3千万の予算で購入する事業を行いました。農業の場合は個人経営が多いため、これがすべての農家に行き渡っているかどうかはわかりませんが、数字的にはバランスを取ったつもりです。

上中委員：ふるさと納税の返礼品のうち漁業関係と農業関係ではどんな物がありますか。

事務局：漁業関係からは干物、水産加工物を提供してもらうことになっています。農業関係は個人からの提供とJAを間に入れたものがありますが、米、野菜、果物です。ただ、作物の状況によっては提供できないケースも生じるので厳しい部分もあるかと思えます。

片木委員：農業の対策は多少進んでいると言われていましたが、休耕地の増加と担い手の減少の問題が深刻なのでシステム的に取り組む必要があると思います。耕作地を維持するため真剣に考えていかなければなりません。個人的なことを言うと田んぼを人に耕してもらっているのですが、その人も若くなく代わりの人もいません。農業の法人化やまとめて農地を耕すシステムの構築等いろいろ検討していかないと10年後には農地の維持が難しくなってくるので、そういうことも実施計画に反映してもらいたいと思います。

前川委員：施策9の成果指標「休日滞在人口率」の現状値が1.09、目標値が1.15です。今の9%増から15%増に上げるということですが、分母となる居住人口がこの10年間で5万人に下がるので実質はもっと小さい数字になると思います。主な取組①の2点目に「泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）来園者を内陸部へと周遊させる取組を促進します」とありますが、これがうまくいくとすればもう少し目標値を上げてよいのではないのでしょうか。施策10の成果指標が「従業者数」ですが、現状値が23,862人、目標値が24,000人で138人の増加にしかなりません。少なすぎませんか。新しい産業を導入という話もありますが、その意気込みとこの数字が矛盾していると思います。

事務局：休日滞在人口率についてのご指摘はそのとおりで、休日のイベント開催時には突出した数字になります。内陸部へと周遊させる取組の促進や今後のインバウンドの獲得によりもっと増えると思うので、目標値について再度担当部局と調整します。従業者数の目標値は1%にも満たない増加率ですが、こちらは人口減も含めての相対的な設定だと思います。おっしゃるとおり産業を増やすことや企業立地を目指している中、雇用の機会を創出するという前提でいけば従業者数も増える傾向になりますので、こちらも再度担当課に確認します。

道場委員：今日は朝からロングパークの清掃活動をしてきたのですが、石の間から草が生えていて、よそから来られた方にこの状態を見られたくないと思いました。また、女性の力では草を根こそぎ抜くことができないので男性の協力が必要です。せっかく観光業界がロングパークに力を入れているのにこの状態ではもったいないと思うので、よろしくをお願いします。

事務局：ご指摘ありがとうございます。11月3日にイオン協力のもとマーブルビーチを中心とした一斉清掃を行う予定で、我々職員も参加します。

川田委員：施策9の主な取組に山側の観光が入っていません。アスレチックを入れてほしいと思います。先日の市内見学で梅林を見ました。山間部の行きにくい場所であるものの、こういう名所をなぜPRしないのかと不思議に感じます。泉南市には本当によい所がたくさんあるので、それをどれだけ活用できるかというところを確実に施策に落とし込んでほしいと思います。山で遊んで海の近くの温泉に入りロングパークでグランピングと完結できるので泉南市のポテンシャルは高いと断言しておきます。とにかく山側の観光を計画に落とし込んでいただきたいと思います。

会長：市民の意見・アイデアのところに「山側にも新たな観光魅力があつたらいいなあ」と記載されています。おっしゃるように地域魅力のポテンシャルは高いので、あとは見せ方や創意工夫の仕方、地域資源のデザインをどう考えるかです。そのデザインの中に地域の意見をどのくらい取り入れることができるかで観光地としての持続可能性が決まります。情報発信と合わせて考えてなければならぬ課題と思います。

中澤委員：施策 10 は雇用ということで障害者雇用についてお聞きします。泉南市役所の障害者雇用率はどのくらいですか。また、今後の目標があれば教えてください。

事務局：障害者雇用促進法において雇用率が決められています。現在の雇用率の正確な数字はわかりませんが、2～3%を目標としています。ただ、これを達成していない部局もあります。この件は調べて後日正式に回答します。今後の目標ですが、障害者の方を優先的に雇用する企業があることを踏まえ、また「誰一人取り残さない」というSDGsの観点からも拡充する方向で考えている状況でございます。

土井委員：施策 8 の文章が全体的に古いと思います。コロナ以降、事業の転換期を迎える中、トレンドとされるDX推進や健康経営についての記述が見受けられないことが残念です。取組状況・背景の3点目に「先端設備導入に対する支援を行っています」と記載されていますが、このように書くのであれば先端設備導入の事案がどのくらいあるかを明確にすべきだと思います。主な取組にしても今の商工業のトレンドワードをしっかりと組み込む形で書かれる方がよいのではないのでしょうか。空き店舗についても補助金頼みのような書き方になっているので、もう少し工夫していただければと思います。施策 10 に関連する話ですが、コロナ以降、堺を基点に勤務時間が同じでも賃金が若干違っています。私どもはハローワークと共同で合同就職面接会を開催しているのですが、若い方が堺での就労を希望されているというデータが顕著に出ています。これまでは泉南の若い方が堺に働きに出て和歌山の方が泉南や阪南に来て働く実状がありましたが、コロナを機に地元での就職を希望する方が増え、和歌山からの就労を確保するのが年々難しくなっています。泉南でも労働賃金を少しずつ上げていかないと若者が泉南に腰を据えて生活する基盤が築けないと思います。しかし、単に賃金を上げればよいというものでもありません。健康経営と言われる雇用環境を整備することが非常に大事になってきます。今後10年間で雇用環境の対策を講じることが人口増につながっていくかと思います。

事務局：施策 8 の文章に関しては、ご指摘のとおりDXもAIもスタートアップの記述さえもありませんので表現の工夫等考えます。先端設備導入とは各店舗にある電子マネーの受け取り機器を市が補助しているというもので、そのことをわかりやすく書けばよいかと思っております。空き店舗については抜本的に何もできていないので、今後の実施計画で対応していきたいというところです。施策 10 の雇用に関しては、おっしゃるとおり賃金格差が顕著に出ています。我々の最終目的の一つは企業立地や企業投資の獲得なので、それを促す中、雇用機会を増やしていきたいと思っております。そういった好循環を我々は目指しているのですが、労働力確保のためには企業が賃金を上げなければなりません。パートタイム等の雇用を増やしていけば単価増も踏まえ泉南市民の方が地元で働きやすいという環境がつかれるのではないかと思います。雇用機会を一定設けるための企業誘致と既存事業の育成に注力していきたいと考えております。

土井委員：クラウドファンディングに対する補助金も出ているので、それも記載されてはどうかと思います。

片木委員：施策8の商工業に入るかどうかわかりませんが、関空をどう位置づけますか。関空が発展していけば泉南市にも税制上の優遇があるので、もう少し関空との関連性を書いた方がよいと思います。

会 長：関空について記載しているところはありますか。

事務局：施策14の交通のところに若干出てきます。我々の行政区域に関空があるため税収もかなりのものです。関空があるからこそ他の市よりもアドバンテージが高いと感じており、それを文言で表すかどうかは別として空港を有するまちであることは認識しています。

会 長：時間が来ましたので本日の審議は以上とさせていただきます。施策10までの審議が終了ということで、次回は施策11以降の審議をお願いしたいと思います。

### 3 その他

事務局：次回、第6回審議会は11月10日（木）10:00～、大会議室で行います。出欠のご回答を11月2日（水）までをお願いしたいと思います。第7回審議会は11月22日（火）、11月24日（木）のいずれかを予定しております。決まり次第お知らせいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

### 4 閉会

会 長：これもちまして第5回泉南市総合計画審議会を閉会いたします。皆さんありがとうございました。